

高西宮一

同窓会報

第12号

1995年7月1日発行



この四月には、三九一名の新会員を迎えた会員数万一六四九名となり、会員間の連絡連携不足がえてして起りがちとなつて居ります。こうした時母校の近況を少しでも身近に知つていただく為にも会報を発刊してゆくのが一番良い方法ではないかと思つて居ります。今後会員の皆様方のご理解ご協力をお願い申し上げます。

さて本年もこの会報にご案内のとおり同窓会の総会が一宮平安閣で八月十三日を開催される運びとなりました。会員の皆様方は恩師を囲んで高校時代のなつかしい話や近況等を懇談していただきたいと思っております。同窓多数のご出席を心よりお待ちしております。

最後に母校の益々の発展と同窓会会員の皆様方のご健勝ご活躍を祈念し、ご挨拶させていただきます。



同窓会総会にぜひドジョウ参加を

同窓会副会長 傍島章介

平成7年度同窓会総会のお知らせ

- 日時 8月13日(日)午後5時より
- 場所 一宮平安殿
- 会費 五千円(学生は三千円)

同封の葉書きで出欠をお知らせ下さい。

今年も同窓会報第十二号を皆様にお届けできることになりました。これもひとえに会員各位のご理解と多大なるご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今年も同窓会報第十二号を皆様にお届けできることになりました。これもひとえに会員各位のご理解と多大なるご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

OB紹介 その一

野球部OB会 塚本義光(9回生)

野球部は昭和47年に創部され、8年後の昭和55年にOB会を発足した。現在、OB会員は200名近くなり、特別会員として歴代の顧問の先生方にも入っていただいている。



正月にはOB会を開き、酒を汲みかわしながら旧交を温め合っている。また、部への援助を行つており、これまでにピッチャーマシン・黒土・ユニホームなどを購入してきた。また、卒業時には3年間の労をねぎらう意味で記念品を一人一人に贈呈してやる。

西高の同じユニホームを着ただけの関係で顔も知らない者同士でも親しみのある会である。先輩・後輩というより同じ仲間として、この関係を、そしてこの会を大切にしている。ひげたわと思つてやる。

年2回のOB会通信により現チームの成績を報告したり、OB会名簿の追加などを行つてやる。8月の第1日曜日にはOB戦を企画し、現役との真剣勝負をしている。久しぶりの硬球だけに現役チームに負けた方が多いが気持ちのよい汗を流して昔のフレーを思い出すことができる。

久しぶりの硬球だけに現役チームに負けた方が多いが気持ちのよい汗を流して昔のフレーを思い出すことができる。正月にはOB会を開き、酒を汲みかわしながら旧交を温め合っている。また、部への援助を行つており、これまでにピッチャーマシン・黒土・ユニホームなどを購入してきた。また、卒業時には3年間の労をねぎらう意味で記念品を一人一人に贈呈してやる。

卓球部の一年生藤谷亮次君(尾西三中出身)が、シングルスの部において、県大会でベスト8に入り、8月3日からの島根県浜田市において開催される高校総体(インターハイ)に出席することとなりました。卓球男子で愛知県から公立高校の生徒がインターハイに出席するのは20年ぶりのことです。西高においてもインターハイ出場は昭和54年の女子バドミントンの丸井ひとみさん以来、16年ぶりのことです。藤谷君は西高へ入学してすぐの一年生春の高校総体の尾張支部選で一位となり、大器の片りんを見せ、今回、一年生での全国大会出場とじつとして今後の活躍がますます期待されます。近年、愛知県の卓球のレベルは非常に高く、この春行われた全国選抜大会では、団体戦の優勝と準優勝とともに愛知県の私立高校がさりとていたほどでした。そんな中での県大会ベスト8入り、全国大会出場は快挙と言つてもよじでしまや。

同窓会では、全国大会での活躍を祈つて、遠征費10万円と校舎に垂らす垂れ幕一本を寄贈する事になりました。

東京支部会開催

同窓会の東京支部会が、平成六年十一月十九日(土)に開催されました。開催されたのは2年ぶりのことです。学校からは、富野、水谷の両先生が参加され、学生を中心とした約20数名の参加がありました。新宿の居酒屋を会場として行わられ、高校時代の思い出話に花が咲きました。今回は、東京在住の学生が幹事となつて首領を取り、参加者を集めてくれました。今回は学生を中心で社会人の参加が少なく、今後は、こうじう集まりが社会人にも広がつてしまことが期待されます。



卓球部の藤谷君インターハイ出場へ 西高から16年ぶり

じ遇職の先生方からのメッセージ

母校を愛する気持ち

富野雅郎先生

広辞苑をみると、母校とは自分が学んで卒業した学校である。西高も創立三十年を経過し、卒業生の皆さんはそれぞれの在学時代を懸命に学び生きていられたわけであります。そして各自は自分の時が一番よかった、とうい思いが強じるのではないかと思う。それが母校を愛する気持ちだと思います。間借り生活でスタートしたあの時代、狭い校門の前の泥ん道、渡りを雨が降ると黄色い傘をさして渡つた頃、おかげで宿のフトンも手作りに干せたわけです。修学旅行でなぜ三方面に分かれて行くのか、とクラス企画の全校放送で両論の激論もやりました。私は西高が一番長期となり七十年勤めさせて戴きました。当時は群の時代で何かにつけて相手校を意識し部活も例外ではありませんでした。眞崎先生のあとハンドボール部をまかせられなんとかして栄光の座を死守せんのと、素人の私は県下の強力校とよく練習試合をさせてもらいました。私は西高が一番長い間で、何かにつけて戴きました。当時は群の時代ではありませんでした。眞崎先生のあとハンドボール部をまかせられなんとかして栄光の座を死守せんのと、素人の私は県下の強力校とよく練習試合をさせてもらいました。冬のインドア県大出場前の十二月、一月は夜の八時すぎまで体育館で練習をやりました。作戦盤を囲んでよく生徒同志で一ティックを自主的にやっていました。これは当時の勉強でもいえることで、独立自尊の精神で自分なりの勉強方法を持つて頑張つていました。

私は母校の為とか西高のためにとかいう言葉は嫌いです。在学時代の教師と生徒がお互いに入格を尊重し合い懸命に生きていました。

く、その集大成が西高を創り母校をつくりあげていくものと思へます。その為には西高が生徒の意願を尊重した自由な学園であります。そして各自は自分の時が一番よかった、とうい思いが強じるのではないかと思う。それが母校を愛する気持ちだと思います。私にとって第一の母校である西高の諸先生方、多くの卒業生の皆さん、長い間本當にありがとうございました。

西高の十四年間

鍵谷亮子先生

私の在住中の十四年間というのでは、随分学校体制に変化を見た歳月でした。学校群制度も一宮・一西のどちらかに振分けられて入学していましたし、定時制も併設されました。卒業式で働きながら学ぶ労苦を語る送答辞に感激するなどのこともありました。その後必修クラブは試行錯誤も経て今は一年生にその形骸が残つているという所でしょうか。学校行事の見直しも進みました。縮小されたり、無くなつた行事もあります。修学旅行のようにメニュー方式になって、又、それ以前のような方式に戻りました。予競会や球技大会のように廃止宣言が後で撤回されたものもあります。これらは生徒の声による所、大であります。これらは生徒の声による所、大であります。これらは生徒の声による所、大であります。

たしかに青年期というものはまさに希望を軸にしているものですが、それは青年の夕暮れの安らぎ。生きる味わいは、自然と共にいる方へと傾きました。花を愛で、旅をして、音楽を聴いて、本を読む、という生きものの最も大切なときであって、これを名門校への単なる準備期間に矮小化したりすると、ひどいシップ返しをうける場合もあります。西高の在住期間中はその事が一番の気がかりで、現代を生きる若者の生活と希望、社会の進展と個人のあり方などをもとに積極的に生徒のみなさんと一緒に活動を頑張っています。

私がこの季節、ただ中に入る皆さんは心優しく、熱心みなみなさんに囲まれて、つづく幸せであったと思つています。

皆さんの「活躍を期待しています」

光に満ちてこじて下さる

大崎康子先生

離任式の夜、宴会が終り、送つていただけで校門まで帰つてきました。○先生の車も走り去り、一人つきり、丁度桜は満開、校舎の向こうの空には月まで皎々として、ああ、この時が、私にとっての西高校の別れなのだと、いつも感傷癖に傾きかけました。突然、体育馆のあたりで、人の声がしました。ドキリと、校門の脇に止めてあつた自分の車に急いで乗り込み、これが、現実というのなのだと思います。

卒業生の皆さん、お元気ですか。

富野先生などと一緒に、「自分なりの美学を実行しました。年を重ねるにつれ、学校にいる自分を、離れたところから見て、評価される傾向が支配的となりました。」

朝の光の清潔しさ、午後の風のそよぎ、夕暮れの安らぎ。生きる味わいは、自然と共にいる方へと傾きました。花を愛で、旅をして、音楽を聴いて、本を読む、という生きものの最も大切なときであって、これを名門校への単なる準備期間に矮小化したりすると、ひどいシップ返しをうける場合もあります。西高の在住期間中はその事が一番の気がかりで、現代を生きる若者の生活と希望、社会の進展と個人のあり方などをもとに積極的に生徒のみなさんと一緒に活動を頑張っています。

まわれた、日本松先生のお姿は、「人生の秋」への自覚を深めさせます。心静かに、つましありたいと思います。

この緑の季節、ただ中に入る皆さんは、それぞの場で光に満ちてこじて下さい。それぞの場で、自分の非力を恥じています。

けれども教科面ではまあ精一杯、それでも心優しく、熱心みなみなさんに囲まれて、つづく幸せであったと思つています。

皆さんの「活躍を期待しています」

日本松索先生、逝去

本校旧職員の日本松索先生が平成七年三月十四日お亡くなりになりました。先生は昭和四十二年に西高に赴任以来二十五年間、西高の歴史とともに歩んできられました。平成五年三月に定年での退職になつてからも非常勤講師として漢文の授業を担当してつたいたたかなお人柄を思うにつけ、残念でなりません。

先生の深いご冥識とあたたかなお人柄を思うにつけ、残念でなりません。

日本松索先生は、平成六年度の総会において、左記のとおり後貢の交代が承認されました。(敬称略)

医師 松山 猛(全田3回生)に代わり、

平成六年度の総会において、左記のとおり後貢の交代が承認されました。(敬称略)

医師 松山 猛(全田3回生)に代わり、

岸田清文(全田2回生)

訂正とおわび

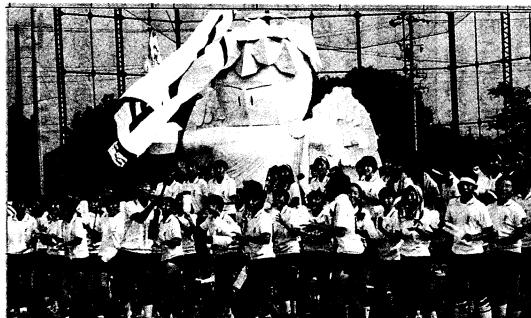
昨年度の会報に同封した「創立30周年記念事業基金応募者(芳名)」に左の方のご芳名がもれています。おわびして訂正いたします。

学園だより

大学合格者数一覧

(平成7年度入試)

北海道大	1	名古屋工大	34	名古屋市立大	4	早稲田大	2	名城大	69
金沢大	11	三重大	18	青山学院大	1	愛知大	68	同志社大	11
福井大	3	滋賀大	8	慶應大	3	愛知学院大	47	立命館大	24
信州大	6	京都大	2	駒沢大	3	愛知工業大	50	関西大	6
岐阜大	31	神戸大	1	東海大	1	愛知淑徳大	70	関西外語大	1
静岡大	10	大阪外大	2	東京理科大	6	金城学院大	32	国公立大学合計	258
名古屋大	41	広島大	1	日本大	5	堀山女学園大	76	私立大学合計	633
愛知教育大	42	愛知県立大	10	法政大	2	南山大	49	公私立短大合計	187



事務長	岩田等	(卒業高校より)	転入事務長	高木繁
社会数学会	市角利男(一宮南高校より)	理科学科	英語会話	
藤井勇(熱田高校より)	秋松収(松蔭高校)	田邊勲(津島東高校より)	鍵谷喜久子(富野雅郎)	
岡田八重子(新採用)	菊原薦(尾北高校)	麻貴(尾北高校)	大崎康子	

職員の異動

(敬称略)

運動部の合宿

ラグビー部(棚橋先生)8/4~8/8
数河高原修徳館
○五七五七一三一六三
京都府宇治市運動公園
くわい山の家○七四七八八一五〇五
テニス・ソフトテニス部(市田・青山先生)
ひるがの高原8/1~8/4
上嶋○五七五七一三一六三
分水嶺○五七五七一三一三〇五

部活動の成績

高校総体尾張支部予選の結果

男子団体総合 優勝

女子団体総合 6位

バドミントン 団体男子 優勝

ダブルス 優勝 2位

シングル優勝 2位 3位独占

体操 団体女子 2位

ラグビー 2位

卓球 団体男子 2位

バスケットボール 優勝

バレーボール 団体男子 3位

陸上 バスケットボール 3位

ソフトテニス バレーボール 3位

テニス 陸上 3位

卓球 ソフトテニス 3位

バドミントン 7位

バドミントン 2位

バドミントン 7位

バドミントン 2位

29

回生年幹事

(全国大会は20年ぶりの快挙です)

県大会出場	陸上(個人男女) 体操女子(県6位)
卓球シングル 藤谷晃次	柔道(個人男女) バレーボール男子
全国大会出場	バスケットボール男子、テニス(個人)
卓球シングル	バドミントン男子、ラグビー、
藤谷晃次	卓球(シングル8位入賞)



- 同窓会総会の開催
平成6年8月21日(日)
名古屋ヒルトンにて開催
旧・現職員、一般会員合わせて約50名の参加をいただきました
- 「同窓会報」第11号の発行
7月1日に発送しました。
- 東京支部会の開催
11月19日(土)に開催
学生を中心に22名が参加
学校側を代表して宮野先生、水谷先生が出席されました。
- 同窓会入会式および卒業記念品贈呈
平成7年3月1日
第29回30名が同窓会に入会
会員総数は一万一六四九名になりました

卒業生に卒業記念品として
証書筒を贈呈しました